

株主通信

第90期 中間報告書

2018年4月1日 ~ 2018年9月30日

変革・挑戦・飛躍
Change, Challenge, Jump-up

TC 株式会社 立花エレテック
C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

Electric & Electronics Technology
立花エレテックは電機・電子の「技術商社」です。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.tachibana.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

『個人投資家向け会社説明会』を開催



8月に広島、9月に名古屋にて「個人投資家向け会社説明会」を開催。多数の方にご来場いただきました。

今後も定期的に開催していく予定で、知名度の向上と企業認知の拡大、さらに投資家・ファンの獲得に繋げられるように取り組んでまいります。

株主様向けアンケート 株主の皆様のお声を聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 8159

いいかぶ

検索

空メールによりURL自動返信

 kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます

 QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

 ※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp/>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」

TEL:03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)
MAIL:info@e-kabunushi.com

TC 株式会社 立花エレテック

〒550-8555 大阪市西区西本町一丁目13番25号
電話：06-6539-2718 FAX：06-6539-8821

<http://www.tachibana.co.jp/>

『CEATEC JAPAN』に初出展しました

～「M2M(機械間通信)といえば立花」をアピール～

10月16日～19日に幕張メッセ(千葉市)で開催されたアジア最大級のエレクトロニクスとITの展示会「CEATEC JAPAN 2018」に“近未来工場をコーディネート”をテーマに子会社の大電社、高木商会と協業し立花エレテックグループとして初出展しました。



出展内容

- 1.複数メーカー装置のM2Mコントロール
- 2.FA領域とIT領域のシステム間連携
- 3.AR(拡張現実)技術を利用した最新デバイスソリューション
- 4.AI(人工知能)を使った画像センシング
- 5.非接触操作の体感(ハンドジェスチャーで簡単にロボットを稼働)

ブースの中心となるのがゴルフボールの検査・判別・箱詰めを行うミニチュア工場。ロボットを主体とした製造工程を再現しており、AIによる画像検査と自動搬送車によってワークを搬送し箱詰めするデモを実施。検査・箱詰め工程では触覚ロボットハンドによるボール種別の判定やM2Mコントローラーによる稼働データ収集と見える化のデモも実施しました。ほかにも

スマートグラスを用いたAR遠隔保守支援システムやハンドセンサーによるロボットの制御技術などを展示しました。



3メーカーのロボットによる工程連携作業



M2M技術によるFA-ITのシステム間連携

業績ハイライト／事業ドメイン

業績ハイライト(連結)

売上高	902億24百万円 前年同期比8.8%増 ↑	営業利益	32億27百万円 前年同期比18.2%増 ↑
経常利益	35億77百万円 前年同期比22.8%増 ↑	親会社株主に帰属する 四半期純利益	24億27百万円 前年同期比21.3%増 ↑

事業ドメイン

FAシステム事業

■FA機器

プログラマブルコントローラー、インバーター、ACサーボや配電制御機器さらに各種モーターの販売。

■FAシステムソリューション

生産設備を監視・計測・制御するシステムの構築やソリューションの提供。またロボットシステムの販売。

■産業メカトロニクス

放電加工機、レーザー加工機、またマニピュレーターなどの各種工作機械の販売。

■産業デバイスコンポーネント

デジタル接続機器やコネクタ等の入出力機器、またFAパソコンやネットワーク機器の販売。

半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体や電子デバイス製品の販売。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。

施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明、空調、エレベーターや監視制御装置。また省エネに優れたオール電化製品の販売。

トータルソリューションで
お客様の課題を解決



事業ドメイン図

MS事業

電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託(EMS)と立体駐車場や鉄道車両に使用される金属部材の加工・製造受託(MMS)。

海外事業

主に中国やアセアンなどのアジアに半導体、FA機器、放電加工機・レーザー加工機などの産業メカトロニクス製品の販売。



「M2Mシステム技術」を高め、 製造業の生産性の向上に 応えてまいります！

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 渡邊 武雄

Q 当中間期の業績の概要についてお聞かせください。

A 良好な事業環境と中長期経営計画の推進により増収増益。また、利益項目全てが中間期として過去最高となりました。

当社グループにおきましては、中長期経営計画「C.C.J2200」の本格的な刈り取り期と位置付け、7つの基本戦略に沿った取り組みを実践するとともに、AI(人工知能)・IoT(モノのインターネット)時代における製造現場の生産性向上に対する要望に応えるべく、グループ各社の技術を結集し、ロボットを含む製造ラインや設備機械を機能的に連動させるM2M(機械間通信)ビジネスを強力に推進しております。

このような取り組みの中で、FAシステム事業では、半導体・液晶製造装置関連並びに自動車関連の旺盛な設備投資需要に伴う受注増加や、鉄鋼プラント向け工場設備案件の獲得なども加わり、大幅に伸長いたしました。半導体デバイス事業は、民生分野向けの需要増や産業分

野も堅調であったことにより好調に推移いたしました。また、施設事業は、製造業における工場の増設や建て替えの動きに伴う案件が増加する中、人材先行投資の成果が現れ大幅に伸長いたしました。

その結果、当中間期の業績は、売上高902億24百万円(前年同期比8.8%増)、営業利益32億27百万円(前年同期比18.2%増)、経常利益は35億77百万円(前年同期比22.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億27百万円(前年同期比21.3%増)で増収増益となりました。なお、利益項目につきましては、全て中間期として過去最高となりました。

Q M2M(機械間通信)ビジネスを本格化していますが、目指している姿についてお聞かせください。

A 技術に磨きをかけ「M2Mといえば立花」といわれる評価を獲得し、M2M市場での主要な地位を築きます。アジア最大級のエレクトロニクス・ITの展示会「CEATEC JAPAN」へ初出展しました。

近年、「AI・IoTの時代」と言われ、人手不足、技術革新、

環境規制などを背景に、製造業では、AI・IoT技術を使って生産ライン全体をコントロールする技術の進化が加速しています。しかし、実際には、なにをどうやって実現すればいいのか、また、なにを目標にすればいいのか、そこが見えていないお客様が大半です。現有の設備・機械を活用しつつ、最小限の投資で生産効率を上げたいというのがお客様の本音です。

そこで求められるのがIoTの前段階にあるM2Mです。コントローラーからの指令で動くだけのマシンではなく、センサーで設備・機械の情報を収集しサーバーに蓄積、そのデータを可視化したり、分析して現場の設備・機械の管理の判断材料にしたり、さらに自動的に制御するといったサービスが実現される。それがM2Mであり、各機器から収集されたデータをクラウドやインターネットを通して活用するIoTレベルはまだ先の段階です。私たちがいま技術商社として注力すべきは、「M2Mシステム技術」を高め、お客様の現状とリアルなニーズを的確に把握し、その上で製造ラインをまとめ上げ、システム提案することです。

なお、M2Mビジネスを強力に推進していくという、その意気込みと当社グループの技術力を大々的に打ち出していくため、今年10月に幕張メッセで開催されたアジア最大級のエレクトロニクス・ITの展示会「CEATEC JAPAN 2018」へ初出展しました。展示会では、当社グループが提案する近未来工場である「M2M技術で自動化された工場」を再現、多くの方(当社ブース来場者4,302人)に注目を浴びるとともにNHKのワールドニュースなどにも紹介されました。また、大阪では「関西工場設備・備品展」に「工場のお悩みを解決」をテーマに参加したほか、半導体分野でも、最先端の組込み技術、IoT技術にフォーカスした「ET: Embedded Technology展」に出展しました。

これら3つの大規模展示会に継続出展しながらさらに技術に磨きをかけていくことで「M2Mシステム技術」に

強い立花エレテックグループをつくり上げ、「M2Mといえば立花」といわれる評価を獲得し、M2M市場における主要な地位を築いていきたいと考えています。

Q 株主の皆様への還元についてお聞かせください。

A 年間では6円増配予定及び株主優待を実施しました。

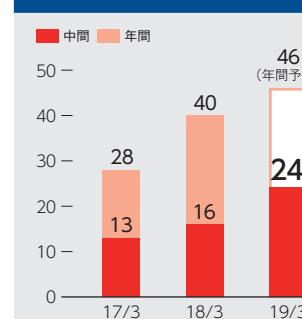
株主の皆様に対する利益還元につきましては、経営の重要課題と認識しており、配当金及び自己株式の取得、株式分割など総合的な利益還元を以って報いてまいりたいと考えています。

当期の中間配当金は、当初予定1株当たり22円に2円増配して24円とさせていただきます。期末配当見通しは22円として、年間配当金は前年比6円増配して46円とさせていただきます予定です。

また、株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方に中長期的に保有していただけるよう、株主優待を導入し、保有株式数と継続保有期間に応じた額面のクオカードを6月下旬に発送いたしました。(株主優待制度の詳細につきましては、P7のトピックスをご覧ください。)

株主の皆様におかれましては、長期的な視点で当社グループの成長を見守っていただきたく、引き続き一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

1株当たり配当金 [単位: 円]

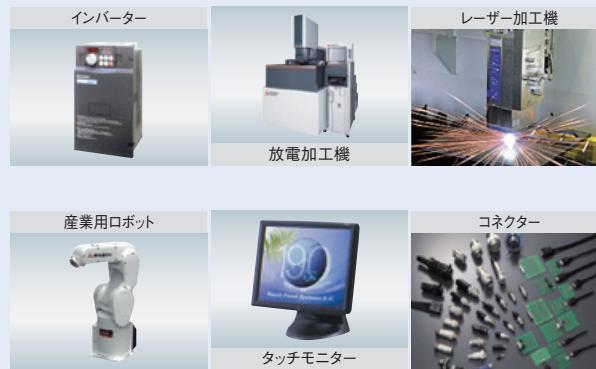


FAシステム事業

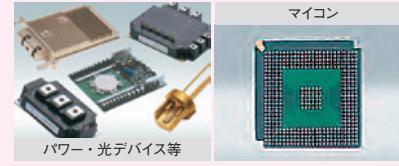


FAシステム事業は、「C.C.J2200」の基本戦略に掲げた「地域のサービスレベルの均一化」への取り組みの徹底と、製造現場の生産性向上を実現するM2M(機械間通信)ビジネスを強力に推進しました。そのような中、半導体・液晶製造装置関連並びに自動車関連の設備投資需要を背景に大幅に伸長しました。

- FA機器分野は、主力製品であるプログラマブルコントローラー、配電制御機器及びACサーボが好調に推移しました。
- 産業機械分野は、レーザー加工機及び製造ライン向け自動化設備が大幅に伸長しました。
- 産業デバイスコンポーネント分野は、タッチパネルモニターが伸長するとともに、子会社の高木商会と大電社の主力製品であるコネクタが堅調に推移しました。
- 鉄鋼プラント向け工場設備案件の獲得が売上に大きく貢献しました。



半導体デバイス事業



半導体デバイス事業は、好調な市況が続く中、顧客の技術的ニーズへの確にのけるとともに、モノ不足に対応して戦略的な在庫確保に努めたことなどにより、売上が伸長しました。

- 半導体分野は、猛暑が続く中、空調関連及び旺盛な設備投資需要に支えられた産業関連に加え、車載関連向けにパワーモジュール及びマイコンが好調に推移するとともに、ロジックIC及びアナログIC等が総じて好調に推移しました。
- 電子デバイス分野は、OA機器用密着イメージセンサーが堅調に推移しました。

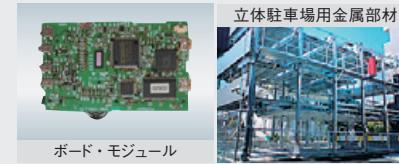
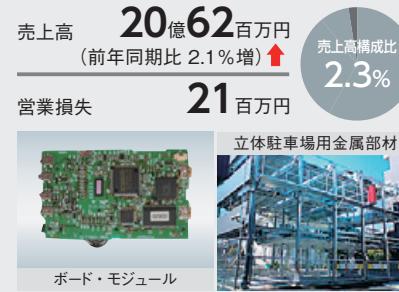
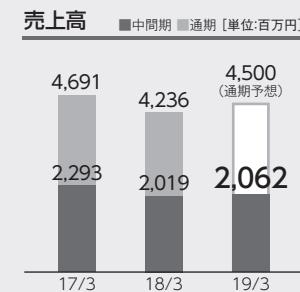
施設事業



施設事業は、製造業における工場の増設・建て替えの動きが増加する中、人材先行投資による販路開拓や取引拡大などの成果が現れ、大幅に伸長しました。

- 猛暑の影響で、ルームエアコン、パッケージエアコンやビル用マルチエアコンが好調に推移しました。
- 昇降機の大型案件が売上に大きく貢献しました。
- 全社をあげて取り組んできたLED照明は好調に推移しました。

その他



- MMS分野は、立体駐車場向け金属部材が伸長するとともに、搬送用荷役機器についても好調に推移しました。
- EMS分野は、自動車関連向け電子機器製造受託の案件が好調に推移しました。

“技術商社”立花エレテックの得意技

～ソリューション成功事例集のご紹介～
<http://tachibana-tokuiwaza.com/>

立花エレテックだからこそ実現できるソリューションがあります。

各事業にて技術商社として培ってきた技術力と豊富な実績に基づいたコンサルティングでお客様の課題を解決します。業種や導入効果、ソリューションから絞り込み検索が可能です。是非ご覧ください。



100株以上保有の株主様にクオ・カードを贈呈いたしました

当社株式への投資の魅力を高め、より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有していただけるよう、株主優待制度を導入いたしました。

●対象となる株主様

毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載または記録された、100株(1単元)以上を保有している株主様を対象とし実施いたします。

●株主優待の内容

下記の通り、毎年3月31日現在の保有株式数と継続保有期間に応じて、優待品(クオ・カード)を年1回贈呈いたします。
3年以上継続して保有の場合、保有株式数に応じて1,000円分または2,000円分の増額がございます。



保有株式数	継続保有期間	
	3年未満	3年以上
100株以上1,000株未満	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	3,000円分	5,000円分

●贈呈時期

優待品(クオ・カード)は毎年、定時株主総会終了後の6月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」、「株主通信」とともに発送いたします。

四半期連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2018年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	92,448	93,782
現金及び預金	16,516	15,705
受取手形及び売掛金	60,841	63,893
たな卸資産	12,620	11,743
その他	2,470	2,439
固定資産	26,473	27,405
有形固定資産	5,314	5,338
無形固定資産	257	285
投資その他の資産	20,901	21,782
資産合計	118,922	121,187
負債の部		
流動負債	48,764	52,035
支払手形及び買掛金	41,332	43,625
短期借入金	1,617	1,644
その他	5,813	6,764
固定負債	2,483	2,657
長期借入金	89	45
退職給付に係る負債	56	71
その他	2,337	2,540
負債合計	51,247	54,692
純資産の部		
株主資本	59,765	57,944
その他の包括利益累計額	6,644	7,317
非支配株主持分	1,265	1,233
純資産合計	67,675	66,495
負債純資産合計	118,922	121,187

四半期連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	前第2四半期(累計) (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
売上高	90,224	82,942
売上総利益	12,077	11,071
販売費及び一般管理費	8,849	8,341
営業利益	3,227	2,729
経常利益	3,577	2,912
税金等調整前四半期純利益	3,577	2,954
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,427	2,001

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	前第2四半期(累計) (自2017年4月1日 至2017年9月30日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,506	4,846
投資活動による キャッシュ・フロー	△655	△546
財務活動による キャッシュ・フロー	△603	△383
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△44	△58
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	202	3,858
現金及び現金同等物の 期首残高	13,274	9,894
現金及び現金同等物の 四半期末残高	13,477	13,753

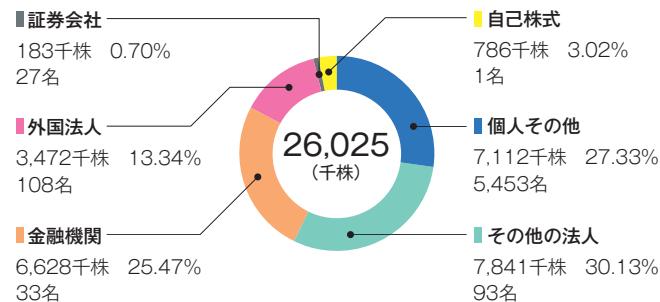
株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	96,000 千株
発行済株式総数	26,025 千株
株主数	5,715 名

大株主		
株主名	持株数	持株比率
三菱電機株式会社	1,921 (千株)	7.61 (%)
株式会社サンセイテクノス	1,478	5.86
KBL EPB S.A. 107704	1,259	4.99
立花エレテック従業員持株会	1,099	4.36
株式会社三菱UFJ銀行	1,082	4.29
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	821	3.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	818	3.24
株式会社きんでん	754	2.99
株式会社ノーリツ	742	2.94
佐竹 千草	491	1.95

(注) 1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
 2. 上記のほか、当社が保有する自己株式が786千株あります。
 3. 持株比率は自己株式786千株を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況 (2018年9月30日現在)



(注) 千株未満は切り捨てて表示しております。

会社概要 (2018年9月30日現在)

商号	株式会社 立花エレテック
英文社名	TACHIBANA ELETECH CO.,LTD.
創業	1921年(大正10年)9月1日
設立	1948年(昭和23年)7月12日
資本金	58億74百万円
従業員数	842名(連結1,329名)
株式上市	東証一部
ISO取得	品質マネジメントシステム ISO9001 JQA-QMA10303 環境マネジメントシステム ISO14001 EMS693431 情報セキュリティマネジメントシステム ISO27001 IS 509430



取締役・監査役・執行役員 (2018年9月30日現在)

代表取締役社長 社長執行役員	渡邊 武雄	常務執行役員	高見 尚志
取締役 専務執行役員	山口 均	執行役員	松野 秀樹
取締役 専務執行役員	高見 真行	執行役員	米田 浩
取締役 常務執行役員	布山 尚伸	執行役員	植田 裕和
取締役	生田 誠	執行役員	多田 満
取締役	辻川 正人	執行役員	相澤 忠範
常勤監査役	増田 厳一	執行役員	松浦 良典
監査役	大谷 康弘	執行役員	城下 雅紀
監査役	塩路 広海	執行役員	永安 悟
		執行役員	佐野 博行

事業所 (2018年9月30日現在)

本社	大阪市西区西本町一丁目13番25号	営業所	東北(宮城県)
支社	東京(東京都)、名古屋(愛知県)		
支店	東関東(茨城県)、北関東(埼玉県)、神奈川(神奈川県)、三河(愛知県)、東海(愛知県)、北陸(石川県)、三重(三重県)、滋賀(滋賀県)、南大阪(大阪府)、神戸(兵庫県)、姫路(兵庫県)、広島(広島県)、四国(香川県)、九州(福岡県)		

関係会社 (2018年9月30日現在)

国内	海外
研電工業株式会社	立花オーバースィーズホールディングス社
株式会社立花宏とシステムサービス	タチバナセールス(シンガポール)社
株式会社大電社	マレーシア営業所
株式会社立花デバイスコンポーネント	タチバナセールス(香港)社
株式会社高木商会	台湾立花股份有限公司
	立花機電貿易(上海)有限公司
	支店: 北京、深圳 営業所: 武漢、大連、青島
	タチバナセールス(韓国)社
	タチバナセールス(バンコク)社
	タチバナセールス(インドネシア)社
	中華人民共和国(香港) シンガポール
	中華人民共和国(香港) 台湾(台北市)
	中華人民共和国(上海市)
	大韓民国(ソウル市)
	タイ王国(バンコク)
	インドネシア(ジャカルタ)

